

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4078400175		
法人名	社会福祉法人 久英会		
事業所名	若久園グループホーム		
所在地	福岡県八女郡広川町新代1389-117 (電話) 0943-32-9060		
自己評価作成日	平成 27 年 9 月 17 日	評価結果確定日	平成 27 年 11 月 18 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「ご利用者の自立と尊厳を守る」という理念を基に、認知力低下の予防やADLの維持及び向上を図るように、日々の活動やサークルなどを行っている。
又、地域との交流にも力を入れており、自治会に加入し近隣の子供達とのふれあいや花見、餅つきなどの地域行事へ参加している。さらに事業所主催の納涼大会などの行事への参加や合同で避難訓練を実施するなど、地域との交流に力を入れている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会	
所在地	福岡県春日市原町3-1-7	
訪問調査日	平成 27 年 10 月 16 日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

広い敷地に法人の福祉施設が隣接している事業所は、明るく、清潔で、広い、季節感あふれるインテリアや小物遣い、利用者の活け花など飾られ家庭的な雰囲気です。職員は穏やかで明るく優しい、調理担当の職員配置により、利用者ひとり一人に寄り添う個別の対応ができています。家族や近隣者に本人の日頃の状況をこまめに報告し、”その人らしく”の個人便りを毎月発行し、本人とのより良い関係が継続できるように支援しています。

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご利用者の自立と尊厳を守り、支援を行う。又、職員間で理念を共有し実践する為に月1回職員会議を行っている。	管理者、職員は理念について日頃から話し合いの機会を持ち理念を共有している。利用者の尊厳と個々の能力に応じ自立したその人らしい暮らしができるように、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域主催のお花見やクリスマス会等、行事へ参加し、地域の一員として交流を深め、暮らし続けていけるよう努めている。その他、当事業所隣接施設3階ホールが地域指定避難場所となっていることから合同で避難訓練を実施している。	地域の活動・行事に地域の一員として役割りをもち参加している。併設の施設と合同で若久園夏祭り、仕掛け花火を打ち上げ（花火師を招き）大勢の地域住民の参加・協力で毎年盛大に開催している。また幼稚園（慰問）・小学生（きらめき学習）・中学校（職場体験）・短大生（実習）など受け入れ、はば広い年齢の方々と関わり世代間交流に努めている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治役員の協力のもと、年に1度、小学生を招き、ゲームやお菓子作り・生け花などを行い、認知症高齢者と触れ合う機会を設けている。その他、地域行事へ参加し、交流を行い、地域の方々にも認知症高齢者への理解を深めて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではご利用者様やサービスの状況や経過及び今後の方向性などについての説明や報告を行う。ご家族や面会の方との意見交換会を行い、サービスの質の向上に努めている。その他、担当看護師より感染症や食中毒などに対する予防策を議題に医療に関する勉強会を実施している。	運営推進会議は、定期的に開催している。会議では、現在の取り組み状況や今後の活動などを報告し、意見や質問をもらっている。もらった意見は利用者ケアの質の向上と地域に開かれた事業所として活かせるように取り組んでいる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議へ可能な限り参加して頂き、情報交換を行い支援時の協力関係を築いている。又、定期的に地域包括センターへ当事業所の空室状況等を報告することで交流を図り、協力関係を築いている。	行政に申請書類の提出に向いた時に話し合い、事業所の運営に関する報告・相談等を行っている。また介護保険制度・法改正ときなど、その都度、電話で相談し対応してもらい、情報を共有し、共にサービスの質の向上に努め取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会を行い、身体拘束に関して禁止となる具体的な行為を理解し、全職員で拘束のないケアの実践に取り組んでいる。しかしながら、現在3名のご利用者に対して時間帯で抑制ベルトやミトン等を使用している。	安全対策委員会を設置し、各部所でのチェックポイントを強化し、お互いの気づきなどを注意合っている。また定期的に職員の勉強会を開催し意識向上を図っている。職員間の連携プレーで玄関や出入口は施錠せずに本人に寄り添い柔軟な対応を心かけている。しかし、現在3名の利用者に時間帯で抑制ベルトとミトンを使用している。	抑制ベルトやミトンを使用している利用者のケアについて検討を行い、拘束しないケアに取り組んでほしい。

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃より、職員間でご利用者への対応を検討して虐待が起きないように注意している。ご利用者の表情やしぐさ、身体状態などにも注意を払い虐待防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての勉強会を行い知識を深め、実際必要になった場合、迅速に対応することができるよう努めている。	権利擁護に関する勉強会を開催し、本人の現有能力を活用し本人の意思を尊重し、より良い生活の実現・よりよく生きる支援であることを理解している。管理者は久留米市成年後見人の制度についての研修を受講し、運営推進会で説明を行っている。また関係者で話し合い支援にむけて取り組んでいる。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書の内容を一つ一つわかりやすい言葉で丁寧に説明し、理解されたか確認を行い納得されたうえで同意が得られるよう努めている。 又、法改正に伴う利用料金変更の際は、ご家族へ連絡し直接説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者やご家族からは常時、意見や要望がないかを伺い、職員間で検討し、できる限り反映させることができるよう努めている。運営推進会議の中でも意見などを伺い、運営に反映できるよう努めている。	利用者・家族は運営推進会議に参加し意見を述べているし、音楽やお花の先生が週に1度訪問されており、その機会はある。また職員は日頃から利用者や家族から意見がもらいやすいように努めている。退居された家族より看取りをして欲しかったとの思いを伺い、その思いを運営に反映できるように取り組み看取りの体制を整えケアに活かしている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は日頃から気づきを養い、月1回職員会議を開催しているので、各職員の意見や提案を言える場を設け実行できるようにしている。	管理者は日頃から職員と一緒にケアに関わり、コミュニケーションを心掛けており、また職員が意見などが言いやすい環境や場を設けている。利用者の更衣の時間を季節に応じ変更するなど、現場の職員の気づきを運営に取り入れている。利用者・家族と職員との馴染みの関係に配慮した柔軟な体制、異動や離職を抑えるように努めている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正職員登用制度を取り入れ、人事評価の結果により準職員から正職員へ転換できるようにになっている。 半年に1度、各自で目標を設定し、向上心を持って働けるよう努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員雇用に関して、管理下の基で面接を行い採用している。 雇用職員に対しても能力を発揮し、自己実現の権利が十分に保障できるよう昇給制度だけでなく、正職員登用制度を取り入れている。	職員の募集や採用選考は公正に行っている。 事業所は職員の教育・育成や資格取得に向けた支援を行い、やりがいや向上心を持って安心して働けるような職場環境や条件の整備に努めている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員勉強会の中に計画を立て、職員などに対する人権教育、啓発活動の教育を行っている。	代表者及び管理者は利用者の人権や職員の人権を確保し、尊重される環境を整えている。 また全職員に人権教育に関する勉強会を開催し、人権教育・啓発活動の意識化を図っている。職員は利用者の人権を念頭におきながら、日々のケアに取り組み実践している。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を育てる取り組みとして、勉強会を毎月実施している。 又、外部研修へも勤務年数や経験を考慮し、それぞれに合った研修を受ける機会を確保している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の事業所グループホーム部会への参加や外部同業者の勉強会へも積極的に参加し、交流を図り意見交換などを行っている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の相談や面談の際に、本人が何に困り不安で今後どのように生活を送りたいのか、じっくり話を聞く機会を設けている。 又、入居後も本人の不安や希望を傾聴し安心を確保する為に、ご家族様の協力を得ながら実践している。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学時や面談については、ご家族のご都合に合わせて対応している。ご家族の不安や心配事などをしっかり傾聴し、わかりやすい言葉で説明をしている。 尚、ご利用者本人を前に相談しがたい場合には個別に対応している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた 対応に努めている	入居前の相談や見学时に傾聴した内容に対 し、ご本人やご家族が困っている内容を見極 め、様々なサービスを紹介し、選択してもら う方法をとっている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを 共にする者同士の関係を築いている	食事の片づけや洗濯物干し・洗濯物たたみを 一緒に行いながら、喜怒哀楽を共に生活して いる。様々な場面で利用者様の今までの経験 を職員が学ぶことができ、お互いに支え合う ことができています。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家 族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築い ている	誕生会や行事への参加を呼びかけ、ご利用者 とご家族の関わりを絶やさないように努めて いる。 又、時にはご利用者との外出や、お盆・年末 年始の外泊・外出を可能な限り協力して頂 き、ご利用者の気分転換などに繋げている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係 が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者のご希望を聞きながら、季節ごとの 外出行事を行っている。 買い物などは個別での外出時間を設けて、馴染 みの場所へ出かけている。 ご家族が遠方にいる方に対しては、毎月、お 知らせ新聞（その人らしく）を通してご利用 者の日頃の様子を伝えて、関係継続の支援に 努めている。	利用者の家族や近隣者の馴染みの人の協力を 得ながら、これまでの生活の継続と関係が途 切れないように努めている。また家族や近隣 者へ担当職員よりのコメントと本人の日頃の 暮らしの様子や写真を載せた”その人らし く”を毎月郵送し、本人との関係継続の支援 に取り組んでいる。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用 者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士で関わりあいを持ち、時にはお 互いに世話をされたりしている。 ご利用者同士で上手くコミュニケーションが 図れない時は間に職員が介入し、会話が楽し めるように支援を行っている。 状態・状況を見てご利用者同士の関係性を把 握し、席替えなどを行っている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を 大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォロー し、相談や支援に努めている	隣接施設への入所や病院への入院に伴い退去 された方の面会に行ったり、必要に応じてご 本人及びご家族の経過をフォローし相談や支 援に努めている。		

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段の会話や関わりの中で、ご利用者の思いや希望を聞き出せるよう努めている。 意思表示が出来ない方については、これまでの生活歴などアセスメントを確認し、ご家族からの情報を収集、参考にして、ご利用者の表情などを見極め、楽しく過ごせるよう検討している。	職員は日々の関わりの中で声を掛け、利用者の思いや意向の把握に努めている。言葉や表情からまた行動で、帽子をかぶれば畑へ行きたい希望が解るなど、生活歴や家族からも情報を得て参考にしている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートの作成や情報診療提供書、最近センター方式の一部を活用し生活歴や生活環境をご家族の協力のもと記入して頂いている。 又、アセスメントを十分に行いサービス利用の経過の把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中から、一人ひとりの1日の過ごし方や心身の状態把握に努めている。 ご利用者の有する力については主観的な現状把握だけでなく、日々の支援の中から個々のADLを把握し、職員同士で情報を共有し統一した支援が出来るように努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族の意向、職員の日々の気づき等、医師や看護師、PT、ST等の助言や指導を受けている。他職種が協力し合う事で本人がより良い生活が遅れるよう介護計画書の作成を行っている。 又、2カ月に1度モニタリングを行い、状況に応じてサービス内容の見直しを行い、現状に合ったサービスを提供できるよう取り組んでいる。	2カ月毎にモニタリングを実施し、利用者の心身状態の変化や状況などケアプランをたてる前に、ユニット間で話し合い医師の気付きも反映しながら、一人ひとりの個別計画を作成している。6カ月毎または状況変化に応じて見直しを行っている。家族から押印・署名をもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果・気づきを個別記録へ記入している。又、普段と様子が違う際には一目でわかるように青ペンで色分けをし記入している。 職員間の送りやりや月1回の会議を活用し、全職員が情報を共有しより良いケア・介護計画の見直しや実践に活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力病院への受診や個別的な買い物などについていつでも柔軟に対応できるよう体制を整えている。 又、外出行事では個々の要望を可能な限り取り入れたり、体調や天候を考慮して臨機応変に対応できるようにしている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年に1度、小学生を招き、きらめき学習を実施。ご利用者と共に楽しめるような活動を考え、交流を持つことで楽しんで暮らせるよう支援している。 又、消防署への訓練要請を行い、合同の避難訓練を行い、万が一に備えてしっかりと対応できるよう指導を受けている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に希望されるかかりつけ医を確認している。現在全利用者、協力医療機関をかかりつけ医にされており、定期往診時に適切な医療を受けられるよう情報提供を行っている。又、突発的な体調変化についても報告し、専門的な治療が必要な場合には家族へその旨伝え、介助方法や情報伝達を職員または看護師より行っている。	現在は、事業所の協力医療機関を受診、訪問診療に来てもらうケースもある。通院介助の方法や情報の伝達について、家族と話し合い合意している。受診の結果などを家族と事業所で共有している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間併設施設の看護師や協力病院との連携を確立しており、日常の関わりで気づいたことをいつでも相談でき、必要に応じ受診や往診により適切な看護を受けられるよう支援している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された際は早期段階で本人様を面会して、状態把握に努めている。同時に病院のソーシャルワーカーや看護師より情報収集を行っている。又ご家族様の希望を伺い、出来る限り希望に沿った形で退院できるよう病院へ連絡調整を行っている。退院時は速やかに受け入れ体制を整えるよう努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、看取り介護導入に向けての準備段階である。職員に看取りに関しての知識や技術の周知を図り、スムーズに看取りが開始できるよう取り組んでいる。尚、ご家族へ看取り介護についての説明を行い、重度化された場合の意向を伺っている。	重度化や終末期のあり方について、事業所の対応方針があり、明文化している。利用開始時や契約時に説明を行い、利用者や家族の意向も確認している。この意向を大切にしながら、関係者で繰り返し話し合い、方針を共有し支援に取り組んでいる。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対処方法については、看護師の協力のもと勉強会を行ったり、マニュアルを再認識し会議を行っている。又、実際に事故が発生した場合でも状態・状況説明や対処方法についてもその都度指導を行っている。尚、夜間帯での初期対応についても職員が熟知しており、夜勤看護職員の協力を受け対応している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、消防署や隣接施設の協力を得て、全職員が昼夜を問わずご利用者が安全に避難できるよう訓練を行っている。 地域との協力体制については、地域の方へ参加呼びかけを行い、合同訓練を行い協力体制を築いている。	マニュアルを作成し年2回、そのうち1回は消防署立ち会いのもとで、法人内合同訓練を実施している。地域の人の要望もあり、避難訓練の協力体制が築かれている。非常用食料・飲料水・備品を事業所内に備蓄している。	
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者からの日々の訴えや希望をもとに、その人に応じた関わり方や充実した生活を過ごして頂くことができるよう、職員同士で話し合っており、誇りやプライバシーを損ねないよう注意している。	職員は利用者の気持ちを大切にし、さりげないケアを心がけている。プライバシーの保護についても徹底している。管理者は内部研修を行い意識向上に努めており、気がついたことは職員同士で都度注意し合っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の様々な場面でご利用者と関わりを持ち、表情や言動からご本人の思いや希望を把握できるように努めている。 また、介助や動作の前に声掛けを行い、希望や思いを引き出せるよう取り組んでいる。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の自立性や希望を尊重し、職員主導の生活ではなく、食事手伝いや洗濯物干し・洗濯物たたみ、縫い物、パズル、テレビ視聴など、個々がどのように過ごしたいか決定して頂き、自分の時間を大切にしている。また、気分転換に屋外散歩を呼掛け促している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1度、訪問理容を実施。 衣類に関しては好みの衣類を着用して頂き、自主性を尊重している。外出や誕生会などの行事の際にはお化粧を施し、おしゃれができるように支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や盛り付け・片づけをできるご利用者に関して、職員と共に活動している。 職員が各ご利用者ができることを見極め、役割を持って生活できるよう支援している。食事は職員と談話を交えながら、家庭的な雰囲気の中で楽しく食事ができるよう意識している。	利用者は準備・片づけを一緒に行っている。 昼食時は軽音楽をかけたり、利用者の嗜好の把握、栄養バランスにも配慮しながら、楽しい時間になるよう努めている。利用者の誕生日には家族を呼んで、一緒に食べるケーキやご馳走での祝いは楽しみにしている。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の食事摂取量や水分摂取量を職員が把握し、いつもと違うようであれば医師や看護師へ報告を行っている。又、個々の状態に合わせ、食事形態などを変更し、食事提供をしている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの必要性を各職員が把握し、全員毎食後にブラシやスポンジブラシを使用し、指導や介助を行い実施している。義歯使用者については、週2回ポリドントにて洗浄している。又、必要に応じて訪問歯科を依頼し、治療や指導を受けている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、失禁軽減に向け時間帯によりトイレ誘導や声掛けを行っている。	職員は利用者の排泄パターンを把握しており、誘導の際には周囲に配慮し、本人の尊厳を損なわない様さりげなく支援している。失禁時の対応も自室のトイレで手早く周囲に気付かれない様配慮している。オムツ・パッドなどの使用を減らすような支援を前向きに行っている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防については、薬物に頼らずに食物繊維や乳製品を食事やおやつなどに取り入れ、運動や排泄時に腹部マッサージを行っている。又、水分摂取量を把握し、便秘予防に努めている。便秘時は、医師や看護師へ相談報告を行い、対応している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった入浴の支援をしている	毎日の入浴が可能である為、本人の気分や体調等を考慮し、希望を受けながら入浴を行っている。入浴時の不安や羞恥心のある方へはプライバシーに配慮し、他利用者と一緒に入浴を希望される方は、安全を考慮し一緒に入浴して頂き、個々にあった入浴支援を実施している。尚、入浴拒否がみられる際は、声掛けや誘導方法を工夫し入浴して頂いている。	基本午前入浴を行っているが毎日準備しており希望に応じて対応している。少ない人で週3回、個浴また友達同士での入浴を楽しんでいる。入浴拒否の人も浴室まで行けば「体重測りましょう」など声掛け工夫やタイミング、希望に応じて入浴ができるように支援している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や疲労などに応じて休息を取っていただいている。日中の傾眠状態に気を付け、昼夜逆転にならないよう活動への参加を促し、夜間の安眠に繋がるよう努めている。夜間に眠れない方に対しては、お茶提供や談話、ビデオ視聴など本人が入眠するまで、思い思いに過ごしていただいている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が薬の内容（目的・用量・用法・副作用）について把握している。特に風邪などの臨時薬を内服してある方については、定時での検温や症状などについて記録をして、症状に変化が見られた際は医師や看護師へ相談報告をしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や能力を把握し、お手伝いなどの役割を持って過ごしていただいている。利用者本人にとって何が楽しみなのか普段の関わりから把握できるよう努めている。気分転換については、ほぼ毎日、屋外散歩を行ったり、レクリエーションや慰問参加、行事計画をたてて参加を促している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段の会話よりご利用者の行きたい場所を聞き出し、季節を感じられるような外出行事を月１回（夏場を除き）行っている。ご利用者の体調不良や雨天時以外はほぼ毎日屋外散歩を行っている。その他、可能な限り個人の希望に沿った外出を行い、買い物などの支援をしている。	陽気や利用者の体調や希望に応じて散歩、外食、買い物、ドライブを支援している。家族への協力依頼もしながら、年６～７回は季節の花見にドライブをしている。外出時、うどん屋さんやファミリーレストランなどを利用している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、金銭所持は控えてもらっているが、お金を持つことで安心される方については少額を所持して頂いている。又、外出行事で買い物へ行くときは、各自で小遣いを所持して頂き、自由に買い物を楽しんで頂いている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればご家族への電話等を取り次ぎに対応している。又、手紙のやり取りは手紙を書くことが困難である方が多いため、職員が月ごとの活動内容や日常の様子、状況などをグループホーム新聞「その人らしく」をご利用者ごとに作成し、ご家族（希望があれば遠方のご家族様へも）へ郵送している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間では利用者様と共に季節に応じた装飾を行ったり、行事や外出時などの写真を掲示している。又、各居室前には利用者様が混乱しないよう、自身の写真入りの表れを作り対応している。ホール内は、和室、手すり、マッサージ機、ソファを配置し、ゆっくりとした雰囲気の中で利用者様の生活にプラスとなるよう努めている。	明るく広いリビングルームは、静養室、ソファ２か所、テーブル・椅子、マッサージ器が設置され、ゆったり落ち着いて寛げる居場所になっている。壁面には利用者と職員の共同作品である季節感溢れるちぎり絵が飾られ、サークルで活けた生花が各箇所に置かれ、居心地よく過ごせるような共用空間である。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は共有スペースを中心とした個室となっており、人の気配を感じながらも一人で過ごす事ができる。共有スペース内には、ソファやマッサージ機などを設置しており、ご利用者が思い思いに過ごせるよう努めている。又、居室の場所や共有スペースでの席位置は、ご利用者の状態やご利用者の交友関係を考慮し配置している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	床頭台は設置しておらず、ベッドとタンス以外はご利用者やご家族の意向を取り入れている。ご家族の写真やご利用者自身が家で使っていたもの、テレビ・仏壇・机・ソファ等置かれる方もおり、その人が、安心できる空間・居室づくりに努めている。	各居室は利用者の身体状況によりベッド・和室に分けられ、トイレ・洗面所が設置されている。利用者の馴染みの物である、TV・冷蔵庫・仏壇・机・ソファ等が持ち込まれ、家族写真や作品が飾られ、好みの物を活かし居心地良く過ごせる様な工夫がある。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室内はご利用者の身体機能を最大限に活かし、且つ危険を最小限にするようにベッドや家具の配置を行っている。又、共有部分に関しては作業しやすいテーブルの高さや動線を確保するなど、環境整備に努めている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
Ⅴ サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）		①ほぼ全ての利用者の
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）		①毎日ある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
			○	③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 （参考項目：30）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご利用者の自立と尊厳を守り、支援を行う。又、職員間で理念を共有し実践する為に月1回職員会議を行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域主催のお花見やクリスマス会等、行事へ参加し、地域の一員として交流を深め、暮らし続けていけるよう努めている。その他、当事業所隣接施設3階ホールが地域指定避難場所となっていることから合同で避難訓練を実施している。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治役員の協力のもと、年に1度、小学生を招き、ゲームやお菓子作り・生け花などを行い、認知症高齢者と触れ合う機会を設けている。その他、地域行事へ参加し、交流を行い、地域の方々にも認知症高齢者へ理解を深めて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではご利用者様やサービスの状況や経過及び今後の方向性などについての説明や報告を行う。ご家族や面会の方との意見交換会を行い、サービスの質の向上に努めている。その他、担当看護師より感染症や食中毒などに対する予防策を議題に医療に関する勉強会を実施している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議へ可能な限り参加して頂き、情報交換を行い支援時の協力関係を築いている。又、定期的に地域包括センターへ当事業所の空室状況等を報告することで交流を図り、協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会を行い、身体拘束に関して禁止となる具体的な行為を理解し、全職員で拘束のないケアの実践に取り組んでいる。しかしながら、現在3名のご利用者様に対して時間帯で抑制ベルトやミトンなどを使用している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃より、職員間でご利用者への対応を検討して虐待がないよう注意している。 ご利用者の表情やしぐさ、身体状態などにも注意を払い虐待防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護のついで勉強会を行い知識を深め、実際必要になった場合、迅速に対応することができるよう努めている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書の内容を一つ一つわかりやすい言葉で丁寧に説明し、理解されたか確認を行い納得されたうえで同意が得られるよう努めている。 又、法改正に伴う利用料金変更の際は、ご家族へ連絡し直接説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者やご家族からは常時、意見や要望がないかを伺い、職員間で検討し、できる限り反映させることができるよう努めている。運営推進会議の中でも意見などを伺い、運営に反映できるよう努めている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は日頃から気づきを養い、月1回職員会議を開催しているので、各職員の意見や提案を言える場を設け実行できるようにしている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正職員登用制度を取り入れ、人事評価の結果により準職員から正職員へ転換できるようになっている。 半年に1度、各自で目標を設定し、向上心を持って働けるよう努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員雇用に関して、管理下の基で面接を行い採用している。 雇用職員に対しても能力を発揮し、自己実現の権利が十分に保証できるよう昇給制度だけでなく、正職員登用制度を取り入れている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員勉強会の中に計画を立て、職員などに対する人権教育、啓発活動の教育を行っている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を育てる取り組みとして、勉強会を毎月実施している。 又、外部研修へも勤務年数や経験を考慮し、それぞれに合った研修を受ける機会を確保している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の事業所グループホーム部会への参加や外部同業者の勉強会へも積極的に参加し、交流を図り意見交換などを行っている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の相談や面談の際に、本人が何に困り不安で今後どのように生活を送りたいのか、じっくり話を聞く機会を設けている。 又、入居後も本人の不安や希望を傾聴し安心を確保するために、ご家族の協力を得ながら実践している。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学時や面談については、ご家族の都合に合わせて対応している。ご家族の不安や心配事などをしっかり傾聴し、わかりやすい言葉で説明をしている。 尚、ご利用者本人を前に相談しがたい場合には個別に対応している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた 対応に努めている	入居前の相談や見学時に傾聴した内容に対 し、ご本人やご家族が困っている内容を見極 め、様々なサービスを紹介し、選択してもら う方法をとっている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを 共にする者同士の関係を築いている	食事の片づけや洗濯物干し・洗濯物たたみを 一緒に行いながら、喜怒哀楽を共に生活して いる。様々な場面で利用者様の今までの経験 を職員が学ぶことができ、お互いに支えあ うことができている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家 族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築い ている	誕生会や行事への参加を呼びかけ、ご利用者 とご家族のかかわりを絶やさないように努め ている。 又、時にはご利用者との外出や、お盆・年末 年始の外泊・外出を可能な限り協力して頂 き、ご利用者の気分転換などに繋げている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係 が途切れないう、支援に努めている	ご利用者の希望を聞きながら、季節ごとの外 出行事を行っている。 買い物などは個別での外出時間を設けて、馴染 みの場所へ出かけている。 ご家族が遠方にいる方に対しては、毎月、お 知らせ新聞（その人らしく）を通してご利用 者の日頃の様子を伝えて、関係継続の支援に 努めている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用 者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士で関わり合いを持ち、時にはお 互いにお世話をされたりしている。 ご利用者同士でうまくコミュニケーションが 図れない時は間に職員が介入し、会話が楽し めるように支援を行っている。 状態・状況を見てご利用者同士の関係性を把 握し、席替えなどを行っている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を 大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォロー し、相談や支援に努めている	隣接施設への入所や病院への入院に伴い退去 された方の面会に行ったり、必要に応じてご 本人やご家族の経過をフォローし相談や支援 に努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段の会話や関わりの中で、ご利用者の思いや希望を聞き出せるよう努めている。 意思表示が出来ない方については、それまでの生活歴などアセスメントを確認し、ご家族からの情報を収集、参考にして、ご利用者の表情などを見極め、楽しく過ごせるように検討している。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートの作成や情報診療提供書、最近センター方式の一部を活用し生活歴や生活環境をご家族の協力のもと記入して頂いている。 又、アセスメントを十分に行いサービス利用の経過の把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中から、1人ひとりの1日の過ごし方や心身の状態把握に努めている。 ご利用者の有する力については主観的な現状把握だけでなく、日々の支援の中から個々のADLを把握し、職員同士で情報を共有し統一した支援が出来るように努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族の意向、職員の日々の気づき等、医師や看護師、PT、ST等の助言や指導を受けている。他職種が協力し合う事で本人がより良い生活が遅れるよう介護計画書の作成を行っている。 又、2カ月に1度モニタリングを行い、状況に応じてサービス内容の見直しを行い、現状に合ったサービスを提供できるよう取り組んでいる。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活やケアの実践・結果・気づきを個別記録へ記入している。又、普段と様子が違う際には一目でわかるように青ペンで色分けをし記入している。 職員間の送りやり月1回の会議を活用し、全職員が情報を共有しより良いケア・介護計画の見直しや実践に活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力病院への受診や個別的な買い物などについて、いつでも柔軟に対応できるように体制を整えている。 又、外出行事では個々の要望を可能な限り取り入れたり、体調や天候を考慮して臨機応変に対応できるようにしている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年に１度小学生を招き、きらめき学習を実施。ご利用者と共に楽しめるような活動を考え、交流を持つ事で楽しんで暮らせるように支援している。 又、消防署への訓練要請を行い、合同の避難訓練を行い、万が一に備えてしっかりと対応できるよう指導を受けている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に希望されるかかりつけ医を確認している。現在全利用者、協力医療機関をかかりつけ医にされており、定期往診時に適切な医療を受けられるよう情報提供を行っている。又、突発的な体調変化についても報告し、専門的な治療が必要な場合には家族へその旨伝え、介助方法や情報伝達を職員又は看護師より行っている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間併設施設の看護師や協力病院との連携を確立しており、日常の関わりで気づいたことをいつでも相談でき、必要に応じ受診や往診により適切な看護を受けられるよう支援している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された際は早期段階で本人様を面会して、情報把握に努めている。同時に病院のソーシャルワーカーや看護師より情報収集を行っている。又ご家族の希望を伺い、出来る限り希望に沿った形で退院できるよう病院へ連絡調整を行っている。退院時は速やかに受け入れ体制を整えるよう努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、看取り介護導入に向けての準備段階である。職員に身取りに関する知識や技術の周知を図り、スムーズに看取りがいかしできるように取り組んでいる。尚、ご家族へ看取り介護についての説明を行い、重度化された場合の意向を伺っている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対処方法については、看護師の協力のもと勉強会を行ったり、マニュアルを再認識し会議を行っている。又、実際に事故が発生した場合でも状態・状況説明や対処方法についてもその都度指導を行っている。尚、夜間帯での初期対応についても職員が熟知しており、夜間看護職員の協力を受け対応している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、消防署や隣接施設の協力を得て、全職員が昼夜を問わずご利用者が安全に避難できるよう訓練を行っている。 地域との協力体制については、地域の方へ参加呼びかけを行い、合同訓練を行い協力体制を築いている。		
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者からの日々の訴えや希望をもとに、その人に応じた関わり方や充実した生活を過ごして頂くことができるよう、職員同士で話し合っており、ほこりやプライバシーを損ねないように注意している。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の様々な場面で御利用者に関わりを持ち、表情や言動からご本人の思いや希望を把握できるように努めている。 又、介助や動作の前に声掛けを行い、希望や思いを引き出せるよう取り組んでいる。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の自立性や希望を尊重し、職員主導の生活ではなく、食事手伝いや洗濯物干し・洗濯物たたみ、縫い物、パズル、テレビ視聴など、個々がどのように過ごしたいか決定して頂き、自分の時間を大切にしている。又、気分転換に屋外散歩を呼び掛け促している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1度、訪問理容を実施。 衣類に関しては好みの衣類を着用して頂き、自主性を尊重している。外出や誕生会などの行事の際にはお化粧を施し、おしゃれが出来るように支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や盛り付け・片付けをできるご利用者に関して、職員と共に活動している。 職員が各ご利用者が出来る事を見極め、役割を持って生活できるよう支援している。食事は職員と談話を交えながら、家族的な雰囲気楽しく食事が出来るよう意識している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の食事摂取量や水分摂取量を職員が把握し、いつもと違うようであれば医師や看護師へ報告を行っている。又、個々の状態に合わせ、食事形態などを変更し、食事提供をしている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの必要性を各職員が把握し、全員毎食後にブラシやスポンジブラシを使用し、指導や介助を行い実施している。義歯使用者については、週2回ポリドントにて洗浄している。又、必要に応じて訪問歯科を依頼し、治療や指導を受けている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄パターンを把握し、失禁軽減に向け、時間帯によりトイレ誘導や声掛けを行っている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防については、薬物に頼らずに食物繊維や乳製品を食事やおやつなどに取り入れ、運動や排泄時に腹部マッサージを行っている。又、水分摂取量を把握し、便秘予防に努めている。便秘時は、医師や看護師へ相談報告を行い、対応している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった入浴の支援をしている	毎日の入浴が可能である為、本人の気分や体調等を考慮し、希望を受けながら入浴を行っている。入浴時の不安や羞恥心のある方へはプライバシーに配慮し、他利用者と一緒に入浴を希望される方は、安全を考慮し一緒に入浴して頂き、ここにあった入浴支援を実施している。尚、入浴拒否がみられる際は、声掛けや誘導方法を工夫し入浴して頂いている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や疲労などに応じて休息を取って頂いている。日中の傾眠状態に気を付け、昼夜逆転にならないよう活動への参加を促し、夜間の安眠に繋がるよう努めている。夜間に眠れない方に対しては、お茶提供や談話、ビデオ視聴など本人が入眠するまで、思い思いに過ごして頂いている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が薬の内容（目的・用量・用法・副作用）について把握している。特に風邪などの臨時薬を内服してある方については、定時での検温や症状などについて記録をして、症状に変化が見られた際は医師や看護師へ相談報告をしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりの生活歴や能力を把握し、お手伝いなどの役割を持って過ごして頂いている。利用者本人にとって何が楽しみなのか普段の関わりから把握出来るよう努めている。気分転換については、ほぼ毎日、屋外散歩を行ったり、レクリエーションや慰問参加、行事計画をたてて参加を促している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段の会話よりご利用者の行きたい場所を聞き出し、季節を感じられるような外出行事を月1回（夏場を除き）行っている。ご利用者の体調不良や雨天時以外はほぼ毎日屋外散歩を行っている。その他、可能な限り個人の希望に沿った外出を行い、買い物などの支援をしている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、金銭所持は控えてもらっているが、お金を持つ事で安心できる方については少額を所持して頂いている。又、外出行事で買い物へ行く時は、各自で小遣いを所持して頂き、自由に買い物を楽しんで頂いている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればご家族へ電話などを取り次ぎ対応している。又、手紙のやり取りは手紙を書くことが困難である方が多い為、職員が月毎の活動内容や日常の様子、状況などをグループホーム新聞「その人らしく」をご利用者ごとに作成し、ご家族（希望があれば遠方の御家族へも）へ郵送している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間では利用者様と共に季節に応じた装飾を行ったり、行事や外出時などの写真を掲示している。又、各居室前には利用者様が混乱しないよう、自身の写真入りの表れを作り対応している。ホール内は、和室、手摺り、マッサージ機、ソファを配置し、ゆっくりとした雰囲気の中で利用者様の生活にプラスになるよう努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は共有スペースを中心とした個室となっており、人の気配を感じながらも1人で過ごす事が出来る。共有スペース内には、ソファやマッサージ機などを設置しており、ご利用者が思い思いに過ごせるよう努めている。又、居室の場所や共有スペースでの席位置は、ご利用者様の状態やご利用者の交友関係を考慮し配置している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	床頭台は設置しておらず、ベットとタンス以外はご利用者やご家族の意向を取り入れている。ご家族の写真やご利用者自身が家で使っていた物、テレビ、仏壇、机、ソファ等を置かれる方もおり、その人が、安心できる空間・居室づくりに努めている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室内はご利用者の身体機能を最大限に活かし、且つ危険を最小限にするようにベットや家具の配置を行っている。 又、共有部分に関しては作業しやすいテーブルの高さや動線を確保するなど、環境整備に努めている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
Ⅴ サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3 くらいの
				③利用者の1／3 くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1 回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3 くらいが
				③利用者の1／3 くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3 くらいが
				③利用者の1／3 くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3 くらいが
			○	③利用者の1／3 くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3 くらいが
				③利用者の1／3 くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3 くらいが
				③利用者の1／3 くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2／3くらいと
				③ 家族の1／3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
			○	③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2／3くらいが
				③ 職員の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2／3くらいが
				③ 利用者の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2／3くらいが
				③ 家族等の1／3くらいが
				④ ほとんどいない